

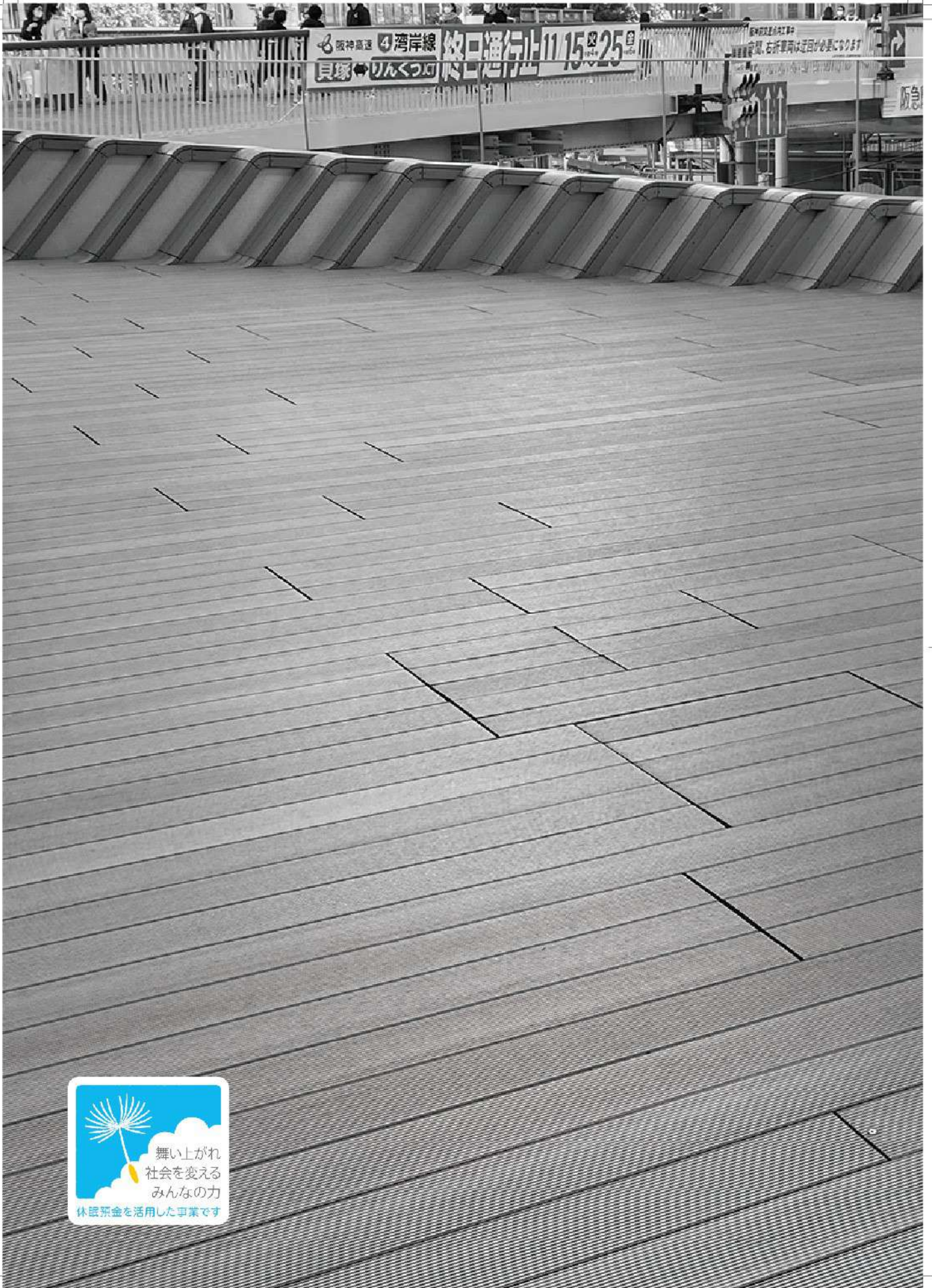
# WOMEN × DISASTER PREVENTION

## 女性 × 防災 事例集

2023  
大阪

女性のエンパワメントで高める地域の防災力  
リーダー育成事業助成プログラム  
事例集

CASE STUDIES & GOODS in OSAKA



舞い上がれ  
社会を変える  
みんなの力

休眠預金を活用した事業です

## C O N T E N T S

はじめに	02
活動概要	03
「女性×防災」CASE STUDY	04
1 笠井あゆみさん	04
2 久保みのりさん	08
3 福田留美さん	12
4 益田紗希子さん	16
5 増田裕子さん	20
「女性×防災」PLUS	24
1 大阪ガスネットワーク(株)	24
2 NPO法人こうのとりのunit	24
3 大阪市住吉区役所	25
4 大阪市住之江区地域振興会女性部	25
ワタシのイチオシ防災グッズ	26

## はじめに

災害に強い地域社会の実現には、女性が防災の意思決定の過程や現場での防災・減災活動に主体的に参画し、ジェンダー平等や多様性への配慮の視点を踏まえた災害対応が行われることが必要です。

しかしながら、その実践活動は、大阪市においては緒についたところであり、南海トラフ巨大地震といった大きな災害が想定される今日、実質的な活動を進展させていくことは急務の課題となっています。

この冊子は、大阪市において防災活動に取り組む女性にフォーカスし、女性のリーダーシップによるジェンダー平等・多様性への配慮の視点を導入した防災力の強化のポイントを、「女性×防災」CASE STUDYとして具体的に事例で紹介しています。

その他にも、大阪市内で防災活動に取り組む企業や市民活動団体、区役所などの事例を「女性×防災」PLUSとして紹介しています。

実際にアクションしている女性の体験からノウハウやアイデア、工夫を学び、これからアクションしようとしている女性の参考としてもらいたい、また、そんな女性たちのステークホルダーの方々をはじめ防災活動に関わるの方々にも理解を深めていただきたいとの思いで作成しました。

# CASE STUDY 活動概要

笠井あゆみさん(大阪市北区)「あおぞら防災ママ認定講座」  
一般社団法人 あおぞら湯 代表理事



子育て支援サークルとして立ち上げた「あおぞら湯」を平成30年に一般社団法人化。北区中津&豊崎つどいの広場『ぐうぐう』や「大阪北区ジシン本」事務局を運営する。

久保みのりさん(大阪市淀川区)「きたなかじま防災さんぽ」  
淀川区北中島小学校 PTA 元役員



令和3年、大阪公立大学が実施するコミュニティ防災人材プロジェクト「MUSUBOU」を受講、防災まちあるきを体験したことが転機となった。  
令和4年3月、北中島小学校PTAで役員OB・OGでも参画可能な防災委員会を設置し、アクションをできるようにした。

福田留美さん(大阪市西淀川区)「にしよど親子防災部」  
NPO法人 にしよどにこネット 代表理事



平成8年に子育て中のママが集まりサークル活動を始めた。防災活動は自らの被災経験を踏まえ実践活動の重要性を感じたことがきっかけとなる。西淀川区で3つの子育て活動拠点を運営する。

益田紗希子さん(大阪市阿倍野区)「あべの親子防災部」  
NPO法人 ミラクルウィッシュ 代表



三田市在住の平成27年にママサークル「ミラクルウィッシュ」を立ち上げ、さんた女子防災部の活動を始めた。令和元年、阿倍野区への転居後に「あべの親子防災部」を立ち上げ、乳幼児を持つ母親に届ける活動を展開する。

増田裕子さん(大阪市淀川区)「自主防災活動」  
新東三国地域活動協議会 副会長  
淀川区地域防災リーダー 隊長



平成24年には地域活動協議会の設立のメンバーとして総務部長に就任、現在は同地協副会長の他、新東三国と淀川区の地域防災リーダー隊長をつとめる。令和3年度には地区防災計画策定に携わり、現在計画更新に取り組んでいる。

# 女性×防災 PLUS

大阪ガスネットワーク(株)

テーマ：企業の地域社会貢献活動×防災  
「考える防災教室」



NPO法人こうのとりのunit

テーマ：助産師による子育て支援×防災  
「ARアプリを活用した被災体験&妊婦体験」(令和4年度)



大阪市住吉区役所 地域課

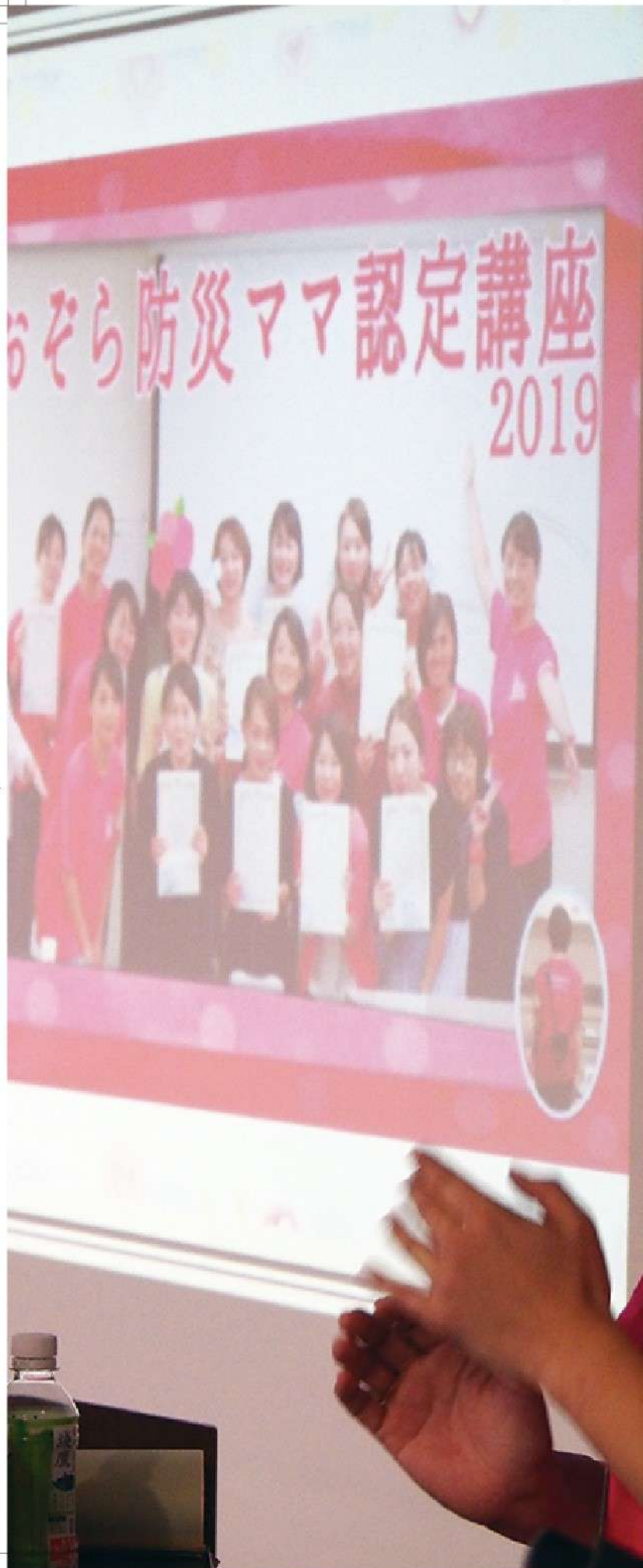
テーマ：防災活動×女性の視点  
「防災専門会議」「住吉区総合防災訓練」  
「女性を対象とした防災講話」(令和4年度)



大阪市住之江区地域振興会 女性部

テーマ：地域防災活動×女性の視点  
リーフレット「女性の視点から避難所を考える」





## CASE STUDY 1

子育て × 防災

### 笠井あゆみさん

一般社団法人 あおぞら湯 代表理事  
大阪市北区中津&豊崎つどいの広場『ぐうぐう』運営

防災の専門家ではない！子育て支援者が伝えたい防災

「知る！学ぶ！考える！」

あおぞら防災ママ認定講座の開催

**自分が「社会とつながっていたい」という思いからサークル活動につながり、「つどいの広場」の運営で子育て世代の支援活動がスタート**

子育て支援に関わる初めのきっかけは自分が社会とつながっていたいという思いから、あおぞら湯としてピラティスサークルをはじめています。

その後にお住まいの地域で、大阪市が公募する「つどいの広場事業」を知り、平成28年から子育て支援の拠点として「ぐうぐう」を実施。平成30年にあおぞら湯の法人化としての活動がスタートしました。あおぞら湯の活動のキャッチコピーは「のれんをくぐればココロあったまる」。子育て世代の居場所づくりに取り組まれています。

**初めてのママでも入りやすいようメンバーが固定化しないように  
情報が届きにくい方に伝わるように**

コミュニケーションをとりにくいママが来られても障害しないように、おもちゃや工作などを遊びの要素を取り入れたり、スタッフにもいるんなタイプのママに担ってもらったりしながら、多様なニーズに応えられるようにしています。

また、様々な支援情報が届きにくい方に伝えられるように、インスタライブやYouTubeで配信するなどSNSも活用し、不特定の方にも伝える工夫をしています。

**防災活動へのきっかけは、自分自身の防災意識の低さへの気づきから、「あおぞら防災ママ認定講座」の開催に**

阪神淡路大震災時の自宅半壊の被災の経験があったにもかかわらず、自分自身が防災の行動につながっていないことに気づき、子育て支援活動の一環として平成28年度に「あおぞら防災ママ認定講座」を始め、8年目を迎え約90名の方が受講しました。受講をきっかけに、修了者は地域コミュニティに参加したり、地域防災に取り組んだり、活動の場を広げています。

**子育て中のママ、子育て支援者としての防災として女性の視点で展開**

あおぞら湯は、乳幼児保護者向けの子育て支援を行う団体ですので、防災活動もママである女性を主な対象として取り組んでいます。最近では、「女性の防災」という視点にフォーカスし、「フェムテックと防災」「女性と災害ボランティア」といったことをテーマにして受講者の交流に取り組んでいます。

また、令和元年からは大阪市北区が実施する「大阪北区ジシン本」という自助のための防災ガイドブックの普及のための講座を行う団体として、防災の専門家ではない子育てママたちがわかりやすい言葉で防災を伝える取り組みを行政と連携して展開しています。



あおぞら湖ピラティス



くうくうハーブスター





あおぞら湯



あおぞらママ防災認定講座5期生  
(修了生の集合写真)



上左：ジシン本スタッフとミャクミャク  
下左：あおぞら防災ママ認定講座



上右：大阪北区ジシン本  
下右：サポーター募集



ジシン本サポーターと大阪市北区長

ここをヒントに!

自分の「したい」をきっかけとした学びあいが講座として形になり、他者の支援につながっています。「アクション」といった行動力が活動につながります。

子育てママたちの生活者・当事者としての声が、防災活動をはじめ子育て支援活動に反映されています。また、子育て層のニーズに応じた活動を通じて、災害時に必要な配慮を知るきっかけになります。



## CASE STUDY 2

PTA

×

防災

### 久保みのりさん

大阪市淀川区北中島小学校PTA 元役員

「自分の体験したことを、近くにいる方にも伝えていきたい」  
思いをアクションに  
『きたなかじま防災さんぽ』の取り組み

#### アクションのきっかけは「防災まちあるき」への参加

もともと防災には関心があり、子どもを持つ親としても平素から地域の防災訓練にも参画している中で、自分なりに防災への課題が見つかり、「もっと勉強してみたい」と思いました。令和3年に大阪公立大学が実施するコミュニティ防災人材育成プロジェクト「MUSUBOU」を受講する機会を得て、防災まちあるきを体験することにより、転機が訪れました。その地域の被害想定をARアプリに入れたタブレット端末を片手に見ながら、専門家のガイドにより地盤の高さや危険箇所などの説明を受けるといった「まちあるき」の体験を地域の皆さんにも伝えていきたいと感じました。

#### 企画書の作成、メンバー間での合意形成、イベントの実施を経て「きたなかじま防災さんぽ」の開催

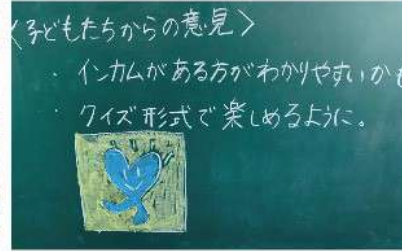
PTAというコミュニティの特性上、子どもと保護者が一緒に参加して「まちあるき」を体験してもらうことや、スタンプラリーなど遊びの要素も取り入れたり、途中で子ども向けの防災クイズを出したり、家族で楽しく参加できるように工夫しています。また、小さなお子さんの同伴やベビーカーで参加の場合はコースを短くするなど、多様なニーズに応えられるようにしています。

#### 継続した活動とするためにPTAの中に「防災委員会」の設立

PTAは子どもの成長とともに役員が交代していくこととなり、活動の継承が課題となります。北中島小学校PTAでは、役員OB・OGでも参画可能な防災委員会を令和4年3月に設置し、引き続き、子どもたちに向けての防災学習や乳幼児・未就学児がいる家庭の防災について、当事者のニーズを聞きとり、アクションを進めています。そして、地域活動協議会や地元の町会の活動としても防災に目を向けた取り組みをするようになってきました。ご自身が防災まちあるきの体験を通じて、普段の町の見慣れた景色が防災を意識した視点に変わったように、地域の皆さんにもお伝えしたいとの思いで、「景色を意識に変えて」をキャッチフレーズにPTAでアクションを展開しています。

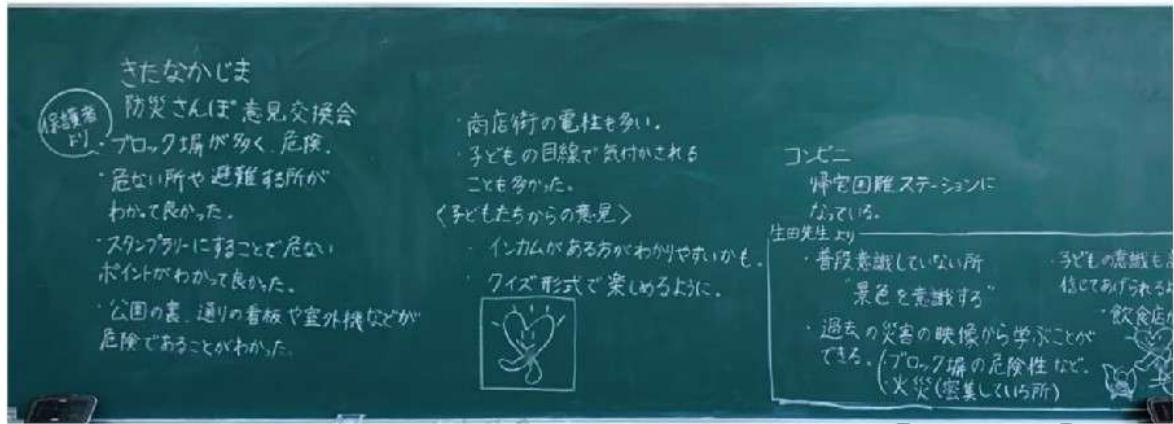


まちあるき「きたなかじま防災さんぽ」

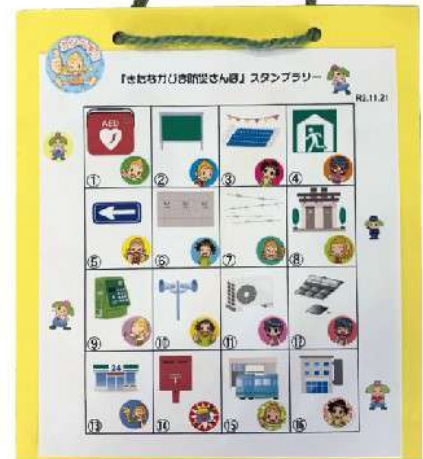


まちあるき「きたなかじま防災さんぽ」・板書





まちあるき「きたなかじま防災さんぽ」・板書



まちあるきのツール・スタンプラリー



まちあるきのふりかえり



PTAは子どもをもつ保護者として共通の視点がベースとしてありますので、アクションを起こしやすい集まりといえます。

また、このケースでは、アクションまでのプロセスが適切なステップを踏んで行われています。



## CASE STUDY 3

子育て × 防災

### 福田留美 さん

NPO 法人 にしよどにこネット 代表理事

にしよど親子防災部 企画スタッフ

大阪市西淀川区大和田&川北つどいの広場、西淀川区役所1階こそだてひろば  
にっこり Room おおわだ、にっこり Room かわきた、  
みんなで子育て！に～よんステーション運営

活動の足元でキャッチした子どもと家族などの

当事者ニーズに応じた子育て支援活動を展開

「生活の中に防災を！」

にしよどにこネットの取組

#### 「大人も子どもも育ちあい、 誰もが誰かのサポーターになれるまちに」 というビジョンで子育て支援活動を展開

平成8年に当時の子育て中のママが集まりサークル活動を始めました。これが活動の始まりです。平成20年にはNPO法人を設立して「つどいの広場」を運営するなど、西淀川区で各種の子育て支援活動を展開しています。

#### 災害時の不安を話し合う機会として 「にしよど防災カフェ」の開催

防災活動を始めたきっかけは、平成7年の阪神淡路大震災の経験から実践活動の重要性を感じたことです。西淀川区は海や川に囲まれている上に、海拔が低いところが多く、東日本大震災後は津波の危険性が指摘されている災害に弱い地域です。しかし、災害への備えの実践活動につながっていないことが支援活動の中で感じたことでした。

そこで、平成27年度から、子育て世代が集まり話し合う「にしよど防災カフェ」を区役所と協働で開催し地に足をつけた活動が始まります。

また、平成28年から2年間は、災害時スペシャルニーズ支援事業（大阪ボランティア協会主催）の子ども支援研究会に参画し、子育て家庭に特化した配慮について調査・研究を行いました。

#### 防災活動へのきっかけは、自分自身の防災 「いざという時に」アクションにつながるよ うに日常に防災を取り入れ、助けあえるネッ トワーク「にしよど親子防災部」の立ち上げ

平成30年、台風21号による大規模停電、断水、強風による倒壊や破損といった被害がありました。被災して感じたことは「子どもの心理的なストレスへのケア」「妊婦の方の支援」「未就学児の家庭と小学校との関係づくり」です。そこで、「にしよど親子防災部」を立ち上げ、対話や実践の勉強会、情報発信を通じて、日常に防災を取り入れ、助け合える地域ネットワーク形成をめざしています。

活動内容は、防災まちあるき、防災デイキャンプ、非常時のトイレ体験、防災かるたの作成、防災ブックの発行などです。また、多言語版の防災資料を備え置き、普段つどいの広場を利用する外国にルーツのある家庭の支援など、多岐にわたる防災活動を展開しています。

#### 多様な主体が参画し対話により新たな防災 の取組みを企画・実施できる場づくり

これらの活動は、にしよどにこネットの女性リーダーだけでなく、イクメンのパパたちの男性も一緒に参画しています。また、区役所、区社協、あおぞら財団、こども関連のNPO、学校などの多様な主体が関わり、地域連携会議といったネットワークができています。



冒険あそび場



つどいの広場







各種発行物



おやこぼうさいかるた



おやこぼうさいブック

ここをヒントに！

生活者・当事者としての子育てママたちといった女性から始動した活動が、パパたち（男性）も主体的に関わっておられることで、特に意識せずともジェンダー平等の視点に配慮がある活動につながっています。活動をけん引していくリーダー層が、必要な援助を受けること、内外の方に関与してもらえるようなアクションが上手にできています。他の市民活動と同様に防災活動でも、リーダー層にはコーディネート、ファシリテートといったスキルが重要となっています。



## CASE STUDY 4

子育て × 防災

### 益田紗希子 さん

特定非営利活動法人 ミラクルウィッシュ 代表

乳幼児を抱えた家庭が災害時に  
自分の命とわが子の命を守れるようになること  
あべの親子防災部の活動

#### 実践活動できていないモヤモヤ感がアクションのトリガーに

平成23年の東日本大震災の発災と同じ年に、和歌山市に住んでいた時にご自身が妊娠し、その後出産を経て、兵庫県三田市で子育てをする中で孤立を感じた時期がありました。当時は子育ての支援の情報にたどり着けなかったのですが、その後保健師からの勧めで、初めて子どもをベビーカーに乗せて子育て広場に行ったことがきっかけで、徐々に子育てイベント等に参加するようになり、子育て中のママや子育て支援している方々と知り合いになっていきました。

そして、平成27年にはご自身が中心となって、知り合い0（ゼロ）、土地勘0、コネ0の状態から、ママサークル「ミラクルウィッシュ」をつくりました。その活動の中で小さな子どもの命を守るための防災の勉強会がスタートしました。

#### 先進的な他地域での活動を模倣しながら、地域の特性に応じた実践活動に

平成28年には三田市から大阪市阿倍野区に住まいが変わり、子どもは保育園に行くようになり、少しの間家にひきこもり状態になりましたが、仕事への復帰とともに時間の余裕ができてきて興味のある勉強会にも参加するようになりました。

その中で北摂地域で活動する「ほくせつ親子防災部」の100円均一ショップで防災グッズを揃えたり、ポリ袋を

使ってクッキングをしたりするような実践行動につながる活動に刺激を受け、自分でも開催するようになり、さんだ女子防災部の活動を経て令和元年には「あべの親子防災部」を仲間とともに立ち上げました。

小中学校での防災訓練や勉強会への参加機会の少ない、乳幼児を持つ母親に特化した防災コミュニティの構築と持続をめざしています。

活動内容は、子育て中の保護者向けの防災講座、ポリ袋クッキング、防災おさんぽ、SNS等での防災啓発などを行っています。

#### 活動と組織の安定に切っても切れない関係の大切なお金

活動に必要なお金のお話しもお聞きました。自ら主体的に活動する場合は団体の自主財源や助成金を獲得して活動しています。

一方、依頼を受けた際は依頼先から必要なお金をいただきたいのですが、なかなかお金の話しを切り出しにくく手弁当になってしまうケースもあるのが悩みです。



防災勉強会



ポリ袋クッキング





あべの親子防災ノート



防災教育チャレンジプラン報告会場



防災おさんぽ

ここをヒントに！

妊娠、出産、育児といった体験から問題意識をもってアクションする行動力があり、メンターとなるキーパーソンがいます。

また、活動を通じて知り合った方々と緩やかなネットワークを形成しています。

個人だけ、団体だけでなく、外部（そと）の方や団体と積極的につながることは、人やお金、情報などの資源を活用できる機会となっています。

Champion of Change  
Japan Award

JWLI   
Japanese Women's Leadership Initiative

JWLI

 JWLI  
Scholars



## CASE STUDY 5

地活協

×

防災

### 増田裕子 さん

新東三国地域活動協議会 副会長  
大阪市淀川区地域防災リーダー 隊長

ジェンダー平等が実現したまちづくり  
及び まちぼうさいをめざして

#### いきなり地域福祉というフィールドに飛び込んだ時から大切にしているのは徒歩圏内の小さな助け合い

平成18年、ご親族の介護や地域での助け合いの気づきから「えいやっ！」と怖いものなしで保健・医療・福祉ネットワーク推進員という立場で地域活動に参画しました。何度も何度もへこむことがありましたが、先輩の女性役員さんの励ましに支えられここまで継続してきました。

地元の町会では「もちつき」といった行事で住民同士の交流が生まれてきました。その後徐々に活動のエリアが、地元町会、小学校区、淀川区、大阪市と広がって活躍するようになって、いつも帰る場所は徒歩圏内の緩やかにつながるコミュニティです。

#### 怒涛の中での地域活動協議会の設立 「話し合いの場をつくる」ことの重要性を感じ、ファシリテーションスキルを学ぶようになりました

平成24年、地域活動協議会設立のメンバーとして総務部長に就任します。様々な思いを一旦着地させるため、これまでの事業について、何のためにしているのかなど、目的を明確にしていく必要がありました。メンバー間で思いを共有するプロセスで、書記や進行役としてのファシリテーションスキルが必要になりました。

また、持続可能な地域活動のためには「地域活動教育」が欠かせないとの思いから、「中学生ジュニアリーダー」事業を展開しました。地域の担い手としての中学生の存在は、今では防災面からも受け入れられていますが、当時はまだ中学生は「担い手の対象ではない」というところからのスタートでした。

#### 地域防災を一本のレールに乗せる「新東三国地区防災計画」の策定とアクション

令和2年度、地区防災計画学会のモデル地区として地区防災計画を地域活動協議会で策定しました。（令和5年6月に改定しました。）

災害時における「自助」「近助」「共助」を途切れることなく実行し「公助」につなぐため、この計画に基づき、防災・減災活動の推進と防災人材育成による持続的な地域防災力の向上に努めています。

この地区防災計画は、男女比がほぼ同数の役員がメンバーとなり話し合いを重ね、地域の特性に応じ、地域コミュニティ主体のボトムアップの計画として策定しました。その後、令和4年度には再びモデル地区として計画の更新を行いました。女性役員の参画が計画へのジェンダー平等の視点の導入につながっています。

#### 地域活動からまちづくりへ、地域防災からまちぼうさいへ～かなえたい地域の未来～

かなえたい地域活動の未来は、女性に限らず、誰もが意思決定の場で地域活動や地域防災をもっと良くしていきたいと声をあげられる社会の実現です。ともすれば、トップダウン型になりがちな地域活動ですが、ネットワーク型の組織が地域防災活動には最適なのではと考えています。リーダーシップとパートナーシップをその時々で効果的に打ち出していくためには、地域活動からまちづくりへ、地域防災からまちぼうさいへ、やさしい言葉に変えていくことがはじめの一歩です。地区防災計画というしっかりしたレールのもとに平時の地域活動のあり方を考える、徒歩圏内のコミュニティを時にむずび、時にほどこき、いざという時に助け合える関係性を続けていきたいです。



小学校・地域合同防災訓練\_みんなでワークショップ



LINEを使った安否確認訓練







地域防災リーダー講習会



新東三国地区防災計画2022



teamsを使った災害対策本部訓練



地域活動に女性が参画しリーダーとして活躍していく近道はありませんが、女性がリーダーとして関われば、ジェンダー視点または性別により災害から受ける影響やニーズが異なる等の多様な視点を活動に反映できます。

組織運営や事業の企画段階から話し合いなどの意思決定プロセスに、女性がリーダーとして多人数で積極的に関わっていくことが重要です。

## 女性×防災 PLUS 1

社会  
貢献

× 防災

### 大阪ガスネットワーク(株)

テーマ：企業の地域社会貢献活動×防災

大阪市中央区



#### 「考える防災教室」

大阪ガスネットワーク(株)では、「考える防災教室」という出前授業を2014年から小学校高学年を主な対象として実施し、累計配布冊数は2023年12月時点で260,000冊となっています。

大災害が起きた後のライフラインが使えない状況でも強く生き抜く知恵や工夫を、クイズを通して考え、学ぶことができる内容になっています。身近な物を使って災害を乗り越える方法をみんなで一緒に考えるなど、「考えた経験」こそが、いざという時に役立つ、もっとも大きな力にできるようにつくられています。

考える防災教室の学習教材冊子は希望する小学校に配布するとともに、授業で活用できる教材として内容の一部を動画で配信しています。

ホームページ「考える防災教室」申込ページ

<https://network.osakagas.co.jp/effort/bousai/index.html>



## 女性×防災 PLUS 2

子育て  
支援

× 防災

### NPO法人 こうのとりのunit

テーマ：助産師による子育て支援×防災

大阪市淀川区

代表理事 岩島 貴久美



#### 「ARアプリを活用した被災体験&妊婦体験」

妊産婦、乳児は災害時に避難困難になることが想定されます。いつ見舞われてもおかしくない自然災害に備え避難困難な時期ならではの準備や心構えがあるはず、そんなことを助産師としての専門家が伝える体験事業に取り組んでいます。

事業の内容は、「阪神高速未来(あす)へのチャレンジプロジェクト」から助成を受けて、プレパパ向けに妊婦ジャケットを着用する妊婦体験と同時に、災害想定AR\*による危機感を体験します。

この体験により、妊婦や新生児の避難行動の難しさを理解することで、災害の避難対応や平時の育児参画を促しています。

参加したプレパパからは「災害時の妊婦・新生児の安全確保が想像以上にたいへんなことがわかりました。」といった声が寄せられました。

※AR：デジタル情報を重ね合わせ現実を拡張する技術



## 女性×防災 PLUS 3

防災

女性の  
視点

### 大阪市住吉区役所 地域課

テーマ：防災活動×男女共同参画（令和4年度の取組）

大阪市住吉区では、女性の視点を踏まえた避難所運営に向けた取り組みについて、住吉区防災専門会議において、重点的に取り組む課題として検討が進んでいます。内容としては、担当する女性職員による防災講話による啓発を実施したり、総合防災訓練の際に各避難所において実際に取り組んだりしています。

#### 1 防災専門会議

令和4年10月26日（水）の「令和4年第2回防災専門会議」において、女性の視点を踏まえた避難所運営を検討するため、グループディスカッションを実施しさまざまな課題を抽出しその対応について意見交換を実施。

#### 2 住吉区総合防災訓練

令和4年11月12日（土）実施の「住吉区総合防災訓練」で、重点項目として女性の視点を踏まえた避難所運営にむけて、更衣室・トイレ・授乳室等のスペースの配置及び配慮事項について検討を実施。

#### 3 女性を対象とした防災講話

「防災基礎知識及び、女性や子どもに配慮した避難所運営」についての防災講話を実施。

令和4年10月18日（火）依羅地域活動協議会女性部（参加者28名）

令和4年11月24日（木）山之内スマイル協議会女性防火クラブ（参加者75名）

令和4年12月4日（日）荻田南地域活動協議会エリアの女性（参加者25名）



住吉区防災専門会議

## 女性×防災 PLUS 4

防災

女性の  
視点

### 大阪市住之江区地域振興会 女性部

テーマ：地域防災活動×女性の視点

#### リーフレット「女性の視点から避難所を考える」

大阪市住之江区地域振興会女性部では、女性の視点を踏まえた避難所運営について防災学習会を開催し検討してきました。その学習会のアウトプットとして、「女性の視点から避難所を考える（地域の生活者の多様なニーズに配慮した避難所運営に向けて）」というリーフレットを取りまとめました。

女性の本音の意見や考えがしやすいように、女性部による女性だけの防災学習会を立ち上げ、専門の先生の講義を受け、その後にワークショップ形式で女性の視点から女性のプライバシーや女性の安全・安心を守るための工夫について話し合いリーフレットに反映しました。

リーフレットには、避難所において女性が着替えや授乳を安心して行えるように、体育館のスペースや教室の一部を、乳幼児連れ世帯・単身女性・女性のみ世帯などが優先的に入れるスペースとして確保するという具体的な取組みに対する意見を掲載し、各地域の避難所運営マニュアルの参考となっています。



# ワタシの イチオシ 防災グッズ

登場されたみなさんが、日頃から使われている防災グッズの中から、読者に教えた「推し」を選んでいただきました。

## 防災バンダナ

無印良品のいつもの防災のアイデアが可愛いイラストの入ったバンダナを、いつも持ち歩くポーチに入れておくと気持ちがホッとします。防災啓発頑張るぞ！と、もしもの災害が起こっても落ち着いて行動しよう！の両方の意味での今の推しのグッズです。（笠井あゆみさん）



## 防水レジャーシート

かなり軽量でコンパクト二重になっていて、防水で暖かいです。もともとピクニック用に購入しました。広げたら4人は座れますし、コンパクトに折りたたんでも使えて便利です。いつも屋外用に、中にもう一枚普通のレジャーシートを折りたたんで入れてます。200cm×200cm⇒縦38cm×横28cm×厚さ3cm。（久保みのりさん）



## 手持ち扇風機（スタンド付）

写真は充電式ですが、電池式タイプもあります。手持ち部分がアルミなので、持ってもひんやりしています。スタンドは立てて使えて、音も静かなタイプです。角度も風量（三段階）も変えられて、持ち運びにも便利なのがすごく良かったです。（久保みのりさん）



## センサーライト

オンオフ、人感センサーライトの切り替えスイッチ付き 停電時はテーブルランプに！（福田留美さん）



## 簡易トイレ、凝固剤、ポンチョ

トイレは我慢できない！ポンチョは雨や埃、トイレの時も安心。自宅のトイレの戸棚にも！（福田留美さん）



## でかランタン

いろいろなランタンを試しましたが、このパナソニックのランタンは明るさが全く違います。おくことができるので作業がしやすいですし、懐中電灯として使うことができるのでとてもいいです。（益田紗希子さん）



## 手作りアロマクリームなど

アロマクリーム アロマアルコールスプレー、スキンケア、ヘアケア、マスクにも使える。自分の好みの香りで手作りしたクリーム。（福田留美さん）



## Cumulus pillow（キュミュラスピロウ）

避難所泊、訓練のたびに首や身体が痛くなっていましたが、この携帯枕で解消しています！ただ、この前はマットなしで寝たので枕があっても身体が痛かったです。（増田裕子さん）



自主防災組織としてであるならば、アウトドア用品のコット（簡易ベッド）です。ベットにもなるし、ベンチにもなって、個人で備えておいても良いと思います。（増田裕子さん）

## コット



本冊子は、休眠預金を活用した民間公益活動として作成しています。

事業名：休眠預金活用事業「女性のエンパワメントで高める地域の防災力リーダー育成事業助成プログラム」

実施団体：一般財団法人 大阪男女いきいき財団

指定活用団体：一般財団法人 日本民間公益活用連携機構（JANPIA）

資金配分団体：公益財団法人 地域創造基金さなぶり

大阪男女いきいき財団（Osaka Gender-Equal Community Foundation【OGCF】）は、市民のみなさま、そして事業者さまのパートナーとして寄り添い、素敵な未来づくりのお手伝いをしています。

「女性のエンパワメントで高める地域の防災力リーダー育成事業助成プログラム」事例集

2024年2月 発行

編集・発行

一般財団法人 大阪男女いきいき財団

〒543-0002

大阪市天王寺区上汐五丁目6番25号

TEL 06-7656-9040

FAX 06-7656-9045

HP <https://danjo.osaka.jp/>